

令和3年 湖西市議会3月定例会

市長施政方針

令和3年2月19日

(はじめに)

本日から、令和3年3月定例会が開催されるにあたり、湖西市の持続可能な発展に向けて『新たな年度に向けた市政にあたっての基本的な考え方』と『主な政策の概要』を申し上げます。

(1 市政にあたっての基本姿勢)

昨年12月、元・中日ドラゴンズの星野仙一さんの「迷ったら、苦しかったら、辛かったら、前へ」言葉を引用させていただきつつ、引き続き「職住近接」による湖西市の持続可能な発展に取り組みたいという想いのもと、市長としての2期目をスタートさせていただきました。

スタートにあたって、『職住近接』を推進するため、大きく4本の柱を示させていただきました。1つ目は「安全・安心、医療福祉」、2つ目は「子育て・教育の充実」、3つ目は「産業の振興～モノづくりは人づくり～」、4つ目は「観光・シティプロモーション」。更には、4本の柱を横断する形で、中・長期における、

① モノづくり人材育成・産業ネットワーク

② 宅地や商業施設造成のための土地利活用政策

です。令和3年度予算におきましても、新型コロナウイルスの影響による収減の中でも、この考えのもとに編成させていただいたところです。

厳しい財政事情や新たな制度設計が必要など、一朝一夕にはいかない事も多々ありますが、引き続き初心を忘れず、『職住近接』により、人口減少や少子高齢化社会の中でも、持続可能な発展による、活気あるまちづくりのため、引き続き全力投球していきたいと思っております。

(2 令和2年度の直近事業)

例年であれば、ここで、一年間の事業の振り返りを申し上げますところですが、12月議会の所信表明におきまして報告をさせていただいておりますので、直近の状況につきまして述べさせていただきます。

まず、新型コロナウイルス感染症への対応状況につきましては、国の緊急事態宣言が首都圏や近隣の愛知県で継続されております。

その中において湖西市では、昨年12月25日から、発熱等の症状がある方の増加に備え、地元浜名医師会の皆様と協力し、PCR検査の体制を強化するとともに、かかりつけ医や身

近に相談できる医療機関がない場合に相談できる、市独自の相談窓口を設置しております。窓口における昨日2月18日までの相談件数は36件で、それぞれの相談内容に応じ、適切なアドバイスや診療先との連絡調整を行っています。市内における昨日までの感染者数は63人となっており、現時点においてはクラスターなど、大きな広がりはありません。これも、感染拡大防止のため、日々奮闘いただいている医療・福祉関係者、その他市民生活を支えてくださっている関係者の皆様、そして何よりも、市民一人ひとりの感染防止へのご理解とご協力のおかげであると、市を代表して敬意と感謝を申し上げる次第です。

また直近では、不要不急の外出等の抑制により大きな影響を受けている飲食・小売業への新たな支援策として、市内飲食店などでテイクアウトやデリバリーのご利用の際、最大800円の割引を受けることができる「湖西市LINE テイクアウト応援クーポン」を、2月22日と3月8日の2回、湖西市の公式LINE登録者（現在、約9,600名）の方々に配信します。感染拡大の防止と市内事業者への支援という経済対策の両立のため、一時的な給付にとどまらず、DXの推進や、新しい生活様式、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた地域経済の活性化、そして新しい生活様式によるDXの活用のために、是非ともご活用いただきたいと思っています。今回は首都圏やお隣の愛知県などにおいて緊急事態宣言が出されている状況を踏まえ、テイクアウトのご利用とさせていただきましたが、感染拡大が落ち着いた暁には、店内飲食やそれ以外のサービス業も含めた消費・経済活性化を図っていきたいと考えています。

このように、感染拡大防止と社会経済活動の両立のため、引き続き社会経済情勢に合わせ、国や県・医師会・商工会ほか関係機関と連携を密にし、迅速かつ、柔軟に、必要な政策を行っていきたいと考えています。

次に、子育て・教育関連につきまして、4月からのこども園化に向けた岡崎幼稚園園舎の工事が完成いたしました。また、GIGAスクール構想の実現に向けた取組としては、小・中学校の児童生徒1人1台のタブレットが、全学校への納品が完了しました。校内高速通信ネットワークの整備につきましても、今月中に工事が完了する予定です。学校修繕においては、知波田小学校校舎の屋上防水改修工事が完了し、白須賀中学校体育館の屋根改修工事も今月中に完了する予定です。引き続き子どもたちの教育環境の更なる改善に向け、事業を進めてまいります。

令和6年2月から焼却再開を予定している環境センターにつきましては、本市初となるPFI手法による仮契約を締結しました。本議会で承認をいただけたら、改良工事と長期包括運営委託のスタートに向け準備を進めてまいります。

また、9月末に着手しました旧環境センターの解体工事は、現在、場内の除染作業と搬

入路の設置工事を進めており、令和3年度中には解体工事を終え、令和4年度には、その跡地へ資源物を保管する「ストックヤード」を建設する予定としております。

水道事業におきましては、水道料金収納業務の効率化・合理化等を目的に、豊橋市と全国初となる県境を越えた協定を2月8日に締結いたしました。スマートメーターの導入とも合わせ、安全・安心かつ持続可能な事業運営を進めてまいります。

公共交通における企業シャトルBaaS事業につきましては、実証実験を、新所原地区及び鷺津地区で昨年末に実施しました。市内企業、市民160人のモニターのご協力により、延べ249回の試乗をいただき、「小型バスだけど乗り心地は良かった」とか「免許返納をした後、このようなバスがあると通院や買い物に便利」などのご意見もいただいております。今回の実験により得られたアンケート結果や検証項目を精査し、今後も新しい交通移動サービスの実現に向け、取り組んでまいります。

最後にいわゆるDXへの取組については、「湖西市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進基本方針」の策定に合わせ、2月12日に「湖西市デジタルファースト宣言」をいたしました。今後は、「湖西市DX推進計画」を策定し、市民の皆さんが便利さを実感できるような、市民に寄り添ったサービスを提供し、「職住近接」の実現と持続可能なまちづくりを目指してまいります。

以上、湖西市における直近の状況について、説明させていただきました。

(3 令和3年度 予算案について)

続きまして、市の財政状況と令和3年度の予算編成におきましては、新型コロナウイルスにより、湖西市においても大きな影響を受けております。特に、製造業・自動車産業をはじめとする企業活動が大きな打撃を受け、加えて、平成26年9月までは12.3%であった法人市民税の法人税割の税率が順次引き下げられ、令和元年10月から9.7%が6.0%となった影響も相まって、令和2年度の法人市民税の決算税収は、元年度と比較すると約10億円もの減収となる見込みです。市といたしましては、今後の経済動向を注視しつつ、過去にリーマン・ショックによる税収減を経験し、相当の財政調整基金を取り崩したこと、そして、今般のコロナ・ショックからも学んだ、財政的なリスクマネジメントを継続しながら、財政運営に取り組んでまいります。

こうした状況を踏まえ、令和3年度の予算編成においては、非常に厳しい財政状況の中、我慢の予算となっています。その中でも、コロナ禍における新たな生活様式への対応はじめ、時代の変化や多様な政策ニーズに応えながら、持続可能な発展のため、限りある財源を効率的かつ効果的に活用できるよう努めました。

特に、「ウィズコロナ・アフターコロナへの対応」や、人口減少対策による活気あるまちづくりのため、引き続き、「職住近接」を推進する手段として、先に述べた4本の柱、

- ① 安全・安心、医療福祉
- ② 子育て・教育の充実
- ③ 産業の振興 ～モノづくりは人づくり～
- ④ 観光・シティプロモーションの推進

を中心として、予算を編成いたしました。

今後もコロナ禍の影響により、税収の減少が続く可能性もありますが、地方交付税の不交付団体は税収の減が交付税で補完されることがなく、不足する財源は自前の財政調整基金で対応していく必要があります。こうした観点での不公平な制度の改正要望は引き続き国等に対して行っていきながら、減収補てん債等を借り入れるなどの手法を採りつつ、予算編成においても、目先のことのみにとらわれず、負担を将来世代に先送りすることのないよう、中・長期かつ世代間のバランスを図る必要があると考えています。

それでは、4本の柱ごとの重点政策について申し上げます。

まず1つ目の、「安全・安心、医療福祉」は、目下のところ「新型コロナウイルス」への対応が、最優先課題です。引き続き感染予防・拡大防止、地域経済の活性化対策に努め、まずは4月から開始する予定の65歳以上を対象としたワクチン接種について、国の方針に則り、しっかりと準備を進めてまいります。また、地域外来・検査センター等におきましては、感染の疑いのある方などに引き続きPCR検査を実施してまいります。

防災関連につきましては、災害対応力を更に強化し、かつ密を避けた避難所配置を進めるため、避難所用段ボールベッドを配備するほか、新しい生活様式に基づいた分散避難のため、地域の公民館等における、地域に密着した避難対策を順次進めます。

道路の安全対策としては、歩行者などが安心して通行できるよう歩道整備や、ドライバーに注意を促すための区画線設置、踏切の改良など、主に歩行者の交通事故防止につながる対策を引き続き行ってまいります。

公共交通における、市内企業と連携した企業シャトルBaaS事業につきましては、今年度行った実証実験の結果を基に、ルートや時刻表、便数などを改善し、進化した形での実装に向けた新たな実証実験を継続して行ってまいります。

環境センターにつきましては、令和6年2月の再稼働に向け、PFI手法による焼却施設・リサイクルプラザの改良工事と長期包括運営委託が、いよいよスタートします。県とも連携して行っている継続的な畜産臭気の対策等と合わせ、中長期的な市民生活と密着したサービス、住環境の改善をすすめて、職住近接に繋げていきたいと思っております。

湖西病院においては、引き続き地域医療の中核として、新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のための取組みを継続してリードしていただくとともに、地域包括ケア病床の病棟化に向けて体制を整えていきます。また、コロナ禍にあっても、24時間365日の救急医療体制を堅持します。更に、新型コロナウイルスの状況を見つつ、高度急性期医療機関との地域的な役割分担、連携強化などの取組みについても並行して進めてまいります。

2つ目の、「子育て・教育の充実」については、GIGAスクール構想を推進し、学習指導要領にもある子どもたちの主体的・対話的で深い学びを実現するため、1人1台のタブレット端末の活用を開始し、双方向できめ細かい、わかりやすい授業を目指し、教職員の研修や支援員を拡充します。

白須賀小においては、市内においてもニーズが増えており、今後も継続が見込まれる肢体が不自由な児童のための特別支援学級を創設します。また、新居小学校体育館の外壁・屋上改修工事、洋式化に向けた東小学校トイレの改修を進め、引き続き学校教育環境を改善してまいります。なお、現在進めております、給食センター化に向けた基本計画は、年内の策定・公表を予定しております。

更に、先般の総合教育会議では、新たな教育大綱のほか、今後の人口減少に伴う児童・生徒数の減少という現実から、令和8年4月には、一学年の児童数が一桁になる学校もあるとのリアルな数字を基に、部活動や学校行事など、子どもたちの教育環境の確保の観点を中心に、将来的な統廃合の必要性についてのご意見をいただきました。今後、「学校教育施設適正化検討委員会」を令和3年度の早期に立ち上げ、保護者や地域の方々とともに、現実的で具体的な議論を行っていただきます。

幼児教育の分野では、令和4年4月の開園に向けて準備を進めている民間保育園2園について、引き続き女性活躍の促進ともなる待機児童の解消実現に向けた支援を行ってまいります。また、保育園の充実により、利用者が増加している放課後児童クラブ、いわゆる学童につき、令和3年度に1単位増設するとともに、更に定員の拡充に向け、施設の増設や民間事業者の活用を進めてまいります。

また関連する組織改編として、子育て世代に寄り添った行政サービスを提供するため、「幼児教育課」の執務場所を「おぼと」1階に変更し、子育て支援や保育園などの手続きを一元化できるよう、ワンストップサービスを拡充します。また、子育て期における切れ目のない総合的な支援を専門的かつ継続的に行えるよう、「子育て支援課」を「子ども家庭課」に改め、新たに「子ども家庭相談係」を設置します。

3つ目の、「産業の振興～モノづくりは人づくり～」については、湖西市の屋台骨である産業の発展、そしてその礎ともなる人づくりに向け、現在行っている浜名湖西岸土地区画整理事業への支援及び大倉戸茶屋松線の整備を、令和5年夏の操業開始に向け、着実に進めてまいります。令和3年度は、区画整理事業においては造成工事を、大倉戸茶屋松線においては道路の築造工事を、スケジュールに沿って進めてまいります。

また、空き店舗や空き家を利活用し、創業や、営業規模を拡大するための新規出店等を行う方へ新たな支援制度を創設し、スタートアップ等の支援をしてまいります。

更に、先ほど申し上げた、中・長期の土地利活用政策においては、長年の懸案である市内の土地利活用状況の改善、具体的には市街化区域内の未利用地の開発促進と、市街化調整区域における利活用可能性の拡大に向け、立地適正化計画の策定等とも合わせ、更なる宅地や商業施設等の増加・造成のためのインセンティブ付与策を検討し、制度設計が整い次第、年内に具現化いたします。

こうした土地の利活用や空き家対策へのインセンティブ、宅地・商業施設の誘致など、複合的・一体的に行うことで、住んで働いていただくための環境を整備し、「職住近接」をいっそう進めてまいります。

中・長期政策のもう一点、モノづくりの分野においては、人材育成、産業の継続的な発展と地域活性化を推進するため、産業振興課に「モノづくり推進室」を設置いたします。子どもたちが地域に愛着を持ち、将来的に住んで働いてくれるよう、商・工業のみならず農業・漁業も含めた職場体験、工場見学や出前講座など様々な機会を通じて、モノづくりの現場に触れる機会を増やしていくほか、事業承継や人材不足など、企業や農林水産事業者が抱える課題を体系的に支援するため、学校や地元企業、発明クラブなど地域が一体となって有機的な連携を図ることができる「モノづくり産業ネットワーク」を構築し、地域と企業、企業間が相互にプラスとなる取組を進めてまいります。

4つ目の、「観光・シティプロモーション」について、海湖館をはじめとする新居弁天地区において、浜名湖地域に年間を通じて更なる賑わいが生まれ、市の観光ブランド力を強化するような観光拠点化のため、民間事業者の力も取り入れ、例えば温泉資源などを活かし、ビーチ・マリンスポーツ、キャンプや商業施設などによる賑わいを創出するためのサウンディング調査を行うほか、国土交通省における「みなとオアシス」拠点としての整備に着手します。

また、「職住近接」を推進するため、引き続き、
・就職時には、「わーくわく「こさい」で新生活・奨学金返還支援補助金」、

- ・結婚時には、「新婚さん「こさい」へおいでん新生活応援金」、
- ・住宅の購入時には、「住もっか「こさい」定住促進奨励金」、

といった、ライフステージに合わせた移住・定住支援制度を継続して行ってまいります。特に、インターネット広告における、検索・閲覧ターゲットを指定したいいわゆるリスティング広告を、前回の東三河地区から中京圏まで拡大するなど、湖西市を中心とした通勤圏内にターゲットを設定し、効果的なPRを展開してまいります。

情報発信においては、湖西市公式LINEに登録者ごとに受け取る情報を選択できる機能や検索機能を追加し、利用者が災害関連や子育て支援情報といった、それぞれのニーズに合わせた情報をタイムリーに受け取れるようになるほか、市のウェブサイトなどへのアクセスを可能にすることにより、情報の入手手段を増やし、利便性を向上させます。

市民交流複合施設につきましては、平成30年度に市民会議からのご提言をいただき、具体的な機能などのワークショップを行おうとした矢先、新型コロナ禍により、現在一旦停止しています。今般の大幅な税収減をはじめとする社会経済情勢の変化を踏まえ、防災機能や文化ホール、コミュニティ機能、湖西市をPRする機能などについて、現実的な善後策を当時の市民会議委員や文化協会、自治会、若い世代など、市民や関係機関の方々に方向性をご議論いただくべく、現在準備しています。できれば、来月には会合を開催させていただき予定であり、準備が整い次第、改めてご案内させていただきます。

来年令和4年1月から開始予定の市制50周年事業においては、記念事業等について、引き続き市役所内の若手プロジェクトチームと、ふるさと大使、浜名湖青年会議所（JC）やKSL（KOSAI Saiko Labo）などの市民・関係者の皆さまと力を合わせ、引き続き準備を進めてまいります。また、公募の結果市内の小・中・高校生はじめ512点もの応募をいただいたロゴマークの選考・投票を現在行っており、機運醸成を図るためのPR事業を行ってまいります。

4本の柱に加え、政策横断的なDX・デジタル化の推進においては、先ほども申し上げました「湖西市DX推進基本方針」と「湖西市デジタルファースト宣言」を基に、DXを全庁的に推進し、利便性の高い市民サービスと効率的で信頼のある行政の実現を目指します。具体的には、2021年から2025年を期間とした「湖西市DX推進計画」を策定するとともに、市税や手数料等の支払いキャッシュレス化、公共施設の予約や行政手続きのオンライン化を進めてまいります。併せて、水道事業における入出・知波田地区への「スマートメーター」の設置を開始し、これにより、自動検針による業務の効率化や漏水の早期発見のほか、取得するデータの解析により、水質や水道管の今後の適正な維持管理について、

産・学・官による共同研究を進めるなど、各分野へのDX活用を推進してまいります。その他にも、外国籍の方との窓口対応等を円滑にするため、タブレット端末を活用した、遠隔の通訳オペレーターによる多言語通訳を導入するほか、行政運営に当たりRPAのさらなる導入や、テレワークを推進してまいります。

(4 むすび)

以上、令和3年度の予算案の主な取組や政策横断的なモノづくり人材育成・産業ネットワーク、土地の利活用、DXの推進などについて、お話しさせていただきました。

結びに当たり、豊田佐吉翁が好きであった、「佐吉の日めくり」にも掲載されている「百忍千鍛事遂全（ひやくにんせんたんことついにまっとうす）」という言葉があります。これは、「百の苦難を耐え忍び、千の努力で鍛えれば、どんなことでも成し遂げられる」という意味が込められており、まさしく、困難に立ち向かい、努力に努力を重ね、世界一の自動織機を作り上げた佐吉翁にふさわしい言葉だと思います。佐吉翁が好きであったということから、豊田家の菩提寺である妙立寺の住職が、この言葉を掛け軸にして豊田家に寄贈し、現在も佐吉記念館の母屋の床の間に飾られています。

湖西市が目指す「職住近接」による持続可能な発展、いつまでも住み続けたいまちづくりは、想いを伝えるには簡単な言葉ですが、市内外の皆様にも、心から「住みたい、住み続けたい」と思ってもらえる湖西市を創っていくことは、決して容易ではなく、かつ中・長期的な、地道な政策の継続が肝心であると理解をしております。10年後、20年後、50年後の未来の湖西市を見据え、子どもたちのため、湖西市の将来のため、まさしく「百忍千鍛事遂全」の言葉のとおり、困難にも正面から立ち向かい、「全力投球」で前向きに進んでまいりたいと考えておりますので、引き続き、議会をはじめ、皆様方のご理解ご支援を、どうかよろしくお願い申し上げます。

以上、私の令和3年3月の市議会定例会、令和3年度予算に関する施政方針とさせていただきます。ありがとうございました。

以 上